

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

65

福岡県立久留米高等学校

自己評価 学校運営計画(4月) 評価(総合) B

学校関係者評価 自己評価は B

評価項目 具体的目標 具体的方策 評価(3月) 次年度の主な課題

項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見

特別活動等	主体的に適切な判断ができる資質能力の育成	成年年齢引き下げに伴う諸問題に対し、個人で対応できる力を身に付けさせる。	A	B	B	・校則の一部変更を検討し、生徒の実態に即した校則を運用していく。 ・部活動および学校行事を通じた生徒の人格形成を図っていく(生徒会・生徒実行委員会の活性化)。 ・体育祭および久高祭を通して、久高に対する愛校心の育成を図る。 ・部活動ごとの地域ボランティア活動を軌道に乗せるとともに、一般生徒へ拡げていくことで、「地域に根差した久留米高校」を実現する。
		新たな校則について、生徒自らで遵守する態度を育むことで、久高生としての誇りを培っていく。	B			
	各種行事およびクラス活動とおとした誠実な心の育成	生徒主体での学校行事の運営をとおして、久高に対する愛校心の醸成を図る。	A	A		
		学校行事および日常のクラス活動をとおして、他者を尊重する心と共同する態度を育成する。	A			
生徒会活動・部活動をとおした久高文化の創造	ボランティア活動をとおして、地域に根差し地域と共生を図る久高生を育成する。	B	B			
	生徒会会議・部長会議等を定例化させ、久高のリーダー育成を図る。	B				
健康指導・環境整備	安心・安全な学校生活を健康に送れる環境づくり	健康診断の計画を早めに立てる。また、組織的に協力体制を整え、円滑な健康診断を実施する。	A	A	B	・各委員会活動の指導を担当教員と生徒会担当が連携して行う。 ・事務室と連携して、用具の購入を計画的に行う。 ・保健室の利用状況の学年把握を徹底する。 ・担任、副担任にかかわらず、学年の健康管理課と学年主任を中心に情報交換及び共有を図る。
		保健委員を中心に感染症対策や熱中症対策を行い、生徒が主体的に「健康」に対して取り組める環境づくりを行う。	A			
	主体的に学習環境を整える生徒の育成	美化点検や掃除道具の管理などの美化委員の活動を行い、落ち着いた学習環境をつくれるようにする。	B	B		
		新校舎に対応した清掃方法を美化委員・保健委員と協議し改善するとともに、学校を美しく保つ意識を高める。	B			
生徒が深淵とした学校生活を送れるための心の健康を維持できる支援の充実	学年・養護教諭・SCとの連携を密に図れる体制を整え、生徒の情報を全職員で共有できる環境をつくる。	A	B			
	保健室の利用状況を学年職員と共有し、生徒の状況把握に努める。	B				
NEW セサミプラン	系統的な探究活動の充実	生徒一人一人の探究活動を推進するために活動内容を見直し、カリキュラムの改善を行う。	B	B	B	・活動内容の見直しの議論を進め、提案もできたが、実現にまでは至っていない。学年内部での改善は進んでいるが、3年間を通じた活動内容の見直しを実現させたい。 ・「問い」を深める調査・研究の計画・運営については、1単位時間の取り組みである点を十分に考慮しつつも、前年度までと同等以上の研究を運営できている。生徒たちが自分たちで「問い」を深めることができるような環境づくりが必要だと考える。 ・普段のカウンター業務や久高祭での展示作成、外部との交流や図書館だよりの作成等、図書委員の活動は例年以上に充実できたので継続したい。選書の際に進路との関連がある書籍を導入するだけでなく、その活用について周知する仕組みを設定したい。
		年間を通じて身につけたい資質・能力(目標)を共有し、活動ごとに内容のフィードバックを行う。	B			
	「問い」を深める調査・研究の計画・運営	ICT機器を活用した事前学習を充実させ、調査活動の質の向上に努める。	B	B		
		テキストや資料を活用し、深まる「問い」の設定や外部調査による学びをとおして、質の高い考察や提案につなげる。	B			
図書館の活用を通じたキャリア教育の推進	図書委員を中心に図書館の利用を促進する企画を計画し、読書に親しむ意識の向上を図る。	B	B			
	進路部内外と連携し、一貫した指導を実施することで、生徒の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。	B				
英語科育成	グローバル人材の育成	英語科行事(英語研修・オーストラリア交流等)を実施し、レベルアップを目標に英語科としてのアイデンティティを構築する。	B	A	B	・英語科行事に関しては、日程調整等都合がつかずアメリカ領事館訪問(1年生)は実現できなかった。また、APU訪問(2年生)を新たに入れたのは良かったため、次年度も行いたい。ただ、2年生が大学訪問が2つあるため、1年生と2年生で調整が必要である。 ・英語多読プロジェクトに関しては、今年度取り組みが遅れた。次年度はスムーズに開始できる体制作りが必要である。 ・広報活動については、ワクドキ授業見学交流会等での生徒の活躍が英語科のアピールに上手く繋がっているため、今後も大事にしたい。
		NET・ALTや大学・企業と連携しながら、必要な英語力、異文化理解や国際感覚を身につけた人材を育成する。	A			
	積極的な学びのための特色ある授業と行事の充実	英語多読プロジェクトを継続し、生徒の好奇心を刺激し、自発的に取り組む雰囲気をつくり、読解力を養う。	C	B		
		授業を根幹として、英語科行事を通して、英語力を養うために、魅力ある授業のための創意工夫を行う。	A			
英語科広報活動の充実	英語科の特色や行事等を校内・校外に向けて積極的に広報活動を行う。	A	B			
	英語科、教務課や企画振興課と連携しながら、英語科の魅力をPRし、効果的な生徒募集を行う。	B				
研究・研修	教員研修の充実	本校に必要な内容の研修を実施し、教育活動の充実と指導力の向上を図る。	B	B	B	・定期考査中に人権や進路指導に関する研修を行うことができたが、今後は必要性や要望がある研修を、柔軟に行える仕組みを考えたい。 ・若年教員研修をはじめとして、全職員が授業改善に意識が向かうよう、公開授業週間などの仕組みを考えたい。研究授業についても、なるべく早い時期に行い、授業改善につなげたい。 ・人権教育については、次年度も学年の課題やニーズに合った内容を検討し実施する。
		若年教員研修の充実を図り、これからの教育の担い手を育成する。	B			
		校外研修への積極的な参加を促し、職員の研修意識を高める。	B			
	授業改善の推進	全学年、年に2回実施する人権教育の内容を再考し、生徒の人的成長を促す。	A	B		
各教科でICT(生徒1人1台端末)の活用の在り方を協議し、さらなる拡大へつなげる。		B				
研究授業では、他教科も含め多くの教員が参観できる体制を整え、授業改善の推進を図る。		B				
情報課	情報セキュリティ環境の改善	県の方針、規約を周知し、安全な利用の徹底を行う。	B	B	B	・ホームページの書き換えは、ある程度可能になっており、迅速な対応ができています。今後、コンテンツの見直しを行うが、スマートフォンでの閲覧を想定し、HTML方式は継続していきたい。本校生徒、保護者向けの更新頻度を増やしていくよう検討する。 ・Chrome bookの破損件数は少なかったが、次年度は使用についての誓約書を提出させ、持ち帰りも検討する。 ・新校舎に合わせて、ICT機器の管理も柔軟に変更していく。 ・USBの使用機会減による、情報セキュリティ推進。
		情報リテラシーを醸成する教育を促進する。	B			
	職員のネットワーク機器利用環境の改善	ポータルサイト、ネットワークサーバーの整備を行う。	B	B		
		学校ホームページの刷新、および職員による編集へ移行を進める。	B			
ICT機器の利用環境改善	chromebookの利用管理と利用の促進を図る。	A	A			
	教室のICT環境の整備と整理を行い、誰もが使いやすいスタンダードを構築する。	A				
B	B	B	B	B	B	・生徒の自主的な部分がのびてきていることは、いいことである。 ・部活動は、人間教育により影響を与えられる。今後も高い加入率を継続してほしい。 ・地域へのボランティアは、いいことである。今後の広がりを期待したい。
B	B	B	B	B	・セサミプランは、以前からの継続だけに縛られず、その時代にあった内容で実施していけるよう、リニューアルに心がけ、効果的な教育活動としてほしい。	
						A
B	B	B	B	B	・先生方も忙しいとは思いますが、職員の研修、資質向上は大切なものである。その時々課題にあった研修を実施してほしい。	
						B

企画・広報	学校内外へ向けての広報活動の充実	本校生徒の姿や、学校の活動を積極的に発信する。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談事業においては、本校生徒ボランティアの力を活かした実施ができた。特に、生徒会のステージ発表は好評であった。しかし、次年度の実施日が「山の日」の振り替え休日に当たるので、早めに日程を告知し、教員・生徒ともに人員の確保をする必要がある。また、塾への広報活動が活発になっているため、学校要覧の発行部数を増やさなければならない。 ・儀式の要項は通常版とZOOM版の両方を早めに用意していたので、ZOOMでの実施にスムーズに対応できた。 ・企画振興課は所属職員が少ないが、業務は多岐にわたるので、業務内容を整理する必要がある。
		本校生徒によるボランティアの機会を増やし、広報に生かす。	B			
	儀式などの企画、立案	儀式の要項作成は各係との調整を徹底し、意見を反映させる。	B	B		
		職員、生徒へ早めに計画を提示することで生徒指導を行いやすくし、儀式の教育的側面を重視する。	A			
職場環境の整備	職員室のネットワーク機器や印刷機器、机などの利用環境を整える。	B	B			
	業務の整理と効率化を図る。	C				
1学年	基本的な生活・学習習慣の確立	久高生として、落ち着いた生活習慣と学習習慣を身につけさせる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・当初と比べると落ち着いた学校生活は送れるようになってきたが、久高生としての自覚がまだ不足している。指示されたり言われたことは誠実に実行できるが、挨拶やマナー、ルールを守るなど当たり前のことを、言われなくても継続できるようにしていく必要がある。 また、精神的に不安定な生徒が多い点や、学習習慣を十分に確立することができなかったことも反省点である。学校生活を通して、多くの生徒が生き生きと活躍できる場の設定や、共に学ぶことの意義、充実感が持てるような取り組みを今後も考えていく。
		継続した取組による力をつけるため、出席皆勤を目指す。	C			
	主体的に学び 挑戦意欲をもつ態度の育成	予習・授業・復習のサイクルを確立させ、基礎学力の定着を図る。	C	B		
		学校行事やボランティア活動、校外活動等への意欲的な参加を促し、人間的成長を図る。	B			
安心・安全な人間関係の育成	言葉の力を意識し、伝えたい言葉を正しく発することを意識させる。	B	B			
	SNS等の使用モラルも含めて、いじめのない人間関係を構築させる。	B				
2学年	校訓「誠実・叡智・気魄」を体現する生徒の育成	ワンストップ挨拶を徹底し、感謝の心を育成する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活面では、できている生徒とそうでない生徒の差が大きく、二極化している。 ・学習面では、基礎基本の定着が不足しており、今後継続性をもって指導していく必要がある。 ・最上級生になるにあたり、もっと自ら集団を引っ張り、行事等を進めようとする意欲をもった生徒の増加を目指す。体育祭に向けて、最上級生として1・2年をリードできるよう準備を進める中で人間的な成長を促していく。
		服装などの身だしなみ、日々の言動を常に省みさせ、久高生としての自覚をさらに促す。	A			
	基本的な生活習慣・学習習慣の徹底	240名全員の出席皆勤を目標とさせる。	C	B		
		予習・授業・復習のサイクルを徹底させ、基礎・基本の徹底および応用力の養成を図る。	B			
学校の中核の担い手として活躍できる人材の育成	リーダーシップ・フォロワーシップを様々な場面で発揮させる。	A	B			
	1年生を導き、3年生を後押しすることにより中核として学校活性化に尽力させる。	B				
3学年	第一志望の進路実現	第一志望の実現に向けて見通しを持って取り組ませ、粘り強く最後まで挑戦させることによって精神的成長を図る。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験の在り方や生徒・保護者の考え方が大きく変容する中で、補習や課外の在り方、学年としての指導の在り方等を、進路部と共に検討していく必要がある。
		受験は団体戦であることを意識させ、授業や課外、行事を通して学年全体で頑張れる集団づくりを目指す。	A			
	体育祭での完全燃焼	最高学年として全員がリーダーであるという意識を持ち、状況を的確に判断しながら主体的に行動できるようにする。	A	A		
		高校生活で学んだことの一つの集大成として体育祭を位置づけて完全燃焼させる。	A			
社会に通用するたくましい人材の育成	皆勤を目指すことによって社会人としての基礎となる自己管理能力を身につけさせる。	C	B			
	成人年齢にふさわしい挨拶や礼儀作法の徹底と、コミュニケーション能力の向上を目指す。	B				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況を的確に把握し、情報共有を図るとともに、諸課題に対し早期対応できる職員体制の構築を図る。 ・諸活動において、生徒の自主的な活動を引き出すとともに、安心して学校生活を送れる環境づくりを推進する。 ・すべての教育活動をコロナ禍前に戻すのではなく、この3年間の経験を活かし、行事等の意義や在り方を再検討しながら進める。 ・ ・
--

B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のPRは大切である。今後も、良い点をアピールしてほしい。 ・JR久留米高校前駅のギャラリーの活用を進めてほしい。 ・ZOOMなどは、今後の教育活動にも、有効に活用してほしい。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・久高生として、生活面、学習面を含め、基本的な生活習慣を早期に身につけさせることが大切である。 ・一方で、帰属意識を高めさせる取組も大切である。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、大学の情報を出すなど、3年次になる前から進路意識の向上に計画的に努めてほしい。 ・生活面、学習面も粘り強く指導を継続してほしい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望は、生徒一人一人の第一希望が達成できるよう、補習や課外の在り方も含め、今後も継続して検討して行ってほしい。 ・本校を卒業してよかったと思える生徒を、毎年育ててほしい。

評価項目以外のものに関する意見

特になし